

1月30日聖アンデレ主教座聖堂で司祭按手式が廣田勝一管理主教司式、竹内謙太郎司祭説教により執行され、教区内内外の参列者の臨証と、教区合同聖歌隊奉唱のもと一人の司祭が誕生した。

◇司祭職に叙任されて

司祭 卓 志雄(タク・ジウン)

人々は司祭を評価する時、積極的だ、人が良い、バランスがとれている、説教が感動的、勉強家だ、などと言う。しかし「あの先生は常に祈る司祭だ」という話はあまり聞いたことがない。司祭における「祈り」というのは、神様は私にとって絶対必要な存在であり、我が救い、我が命、我が愛、我の全てであることを知性で理解し、口で宣べ伝え、心で信じることの始まりである。また司祭の真

の働きを可能にする原動力である。司祭における権威は人間的な部分から成るものではなく、神様との対話である「祈り」から自然に成るものではないか。主に従事全ての人の全てになり、自分で徹底的に捧げる生は、弱い人間の限界を超える要求であり人間の力ではできない。そのため「祈り」によらなければ神様の働きに參與することも、真の司祭の働きもできないのではないか。「祈り」によらない牧会はただ牧会の真似にすぎないのでないか。これからは「祈る司祭」として弱い人間でありながらもキリストにあやかりたい。絶えず祈りながらパウロの言葉を常に心に留めたい。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能で

す(斐リピ4・13)。

・先日行われた聖職按手式にお越しいただき、またお祈りをもつてお支えくださいましたこと、本当にありがとうございました。

(練馬聖ガブリエル教会副牧師)

正義と平和協議会

運営委員会報告 (1月22日)

* 委員は5名で、さらに2名選出予定。

* プレ宣教協議会(8月)の宣教主事報告と情報交換。

* 管区正義と平和委員会が韓国訪問を検討中など議長報告。

* 聖公会「正義と平和」声明決議集を順次発行する。

* 協議会団体会員の各活動に対する支援、給食活動への注目。

* 「正義と平和協議会便り」発行。

【クローズアップ】 38

正義と平和協議会シンポジウム

12月5日(土) 13時より正義

と平和協議会主催のシンポジウム「命をつなぐ働きをめざしてく」私たちはなぜ野宿者支援活動に入ったのか」が浅草聖ヨハネ教会で開催された。副題にあるとおり笹島、釜ヶ崎、東京と各地で野宿者・生活困窮者の支援をしている日本聖公会の関係者3名が発題者となつた。

発題者から「野宿者・ホームレス」ではなく「失業者」であるとの指摘がなされた。必要となるのは自立していくための援助であり給食活動や夜回りをすることは手段であつて目的ではないことが強調されていた。

行政によつて、居所を封鎖された現場や酔つた会社員に寝込みを襲われて命を落とした状況など野宿せざるを得ない人々の生活の実際が写真とともに紹介され、思いが分から合われた。浅草聖ヨハネ教会の日曜給食についても「教会の外に出でない活動。普通の教会が教会の働きとしてやつていること」と報告された。

また、笹島のある中部教区では野宿者支援の中心を担うNPO事務局が教区事務所に置かれ、市内の教会が他教派や市民団体と共に協働している姿も紹介された。

発言の中で興味深かったのは現在の教会はその働きが単純になつているのではないか」と

いう問い合わせであつた。宣教の当初、病院・学校を始め社会的な働きの中核を教会が担つていてのに対し、現在は「内輪だけの平和を求めているように見える」との意見があつた。

一方で、このようない「社会的な働き」を教会がすべきではないとの声に対し、「命に関する問題に教会は関心を持たないのだろうか」との問い合わせを受けた。

これらの一連の問い合わせは今後のそれに応答していくのかは今後のそれぞれの教会が課題にしていくことなのだと思う。

それぞれに熱い思いが語られ予定の時間を越えて終了した。

正義と平和協議会 前議長